

人と歴史をつなぐ 「伝道師」

中世以来、熊野三山へ参詣する人々が通った熊野古道。室町時代には「蟻の熊野詣」と言われるほど多くの人が熊野におしよせたと伝えられています。

そんな熊野古道が有田市宮原町から有田川を越え糸我町にかけて約六キロにわたり通っています。沿道には、蕪坂王子社をはじめ三つの王子社の他、歴史的言い伝えに満ちた太刀の宮、爪書地蔵、得生寺、糸我稲荷神社など古人をしのぶ文化財が多数あります。

語り部は、こんな素晴らしい有田の歴史をいつまでも後世に伝えること、そして歴史や文化、自然の景観、人々の暮らしなど有田の魅力を存分に引き出し、訪れる人々の心に残る旅を演出するなど、まさしく人と歴史をつなぐ伝道師です。

熊野古道の歴史

「時さかのぼる歩き旅」

ウォーキング大会にて熊野古道紀伊路宮原コース（宮原駅～蕪坂塔下王子社跡）を歩きました。
蕪坂塔下王子社跡、太刀の宮、爪書地蔵でウォーキング参加者とその場所ならではの逸話を話され、参加者は、その話に夢中となり、時を忘れるウォーキング大会となりました。語り部は熊野古道以外にも愛宕山や箕島漁港で、観光会社や個人からの依頼を受け、活動しています。

太刀の宮



宮崎定直が大坂の陣から帰る途中、この社前で名剣の靈験によって危難を免れたため、その剣を奉納した。その後里の人々は誰言うともなくこの祠を「太刀の宮」と称するようになり、病氣平癒や災難除けの祈願をするたびに木刀を奉納する習慣となっている。

爪書地蔵



2間四方の堂の中に幅4m余りの大きな岩があり、その岩面に阿彌陀仏と地蔵菩薩の二尊像が線彫りされている。
伝説として弘法大師が熊野への参詣の途上、ここで不動の法を修め生爪で石面に彫りつけたといわれている。

語り部インタビュー



和歌山県観光ガイド専門員
紀州語り部 夏見任巨さん

観光客の喜びが自分の喜び

「語り部になったきっかけは、平成16年に和歌山県の語り部に登録するよう依頼された事でした。当時は、有田市の歴史について知識もありませんでしたが、書物を読み、実際に熊野古道を歩くことで知識を増やしていききました。インターネットなどが普及した今、そこに載っていないネタを観光客に紹介することで、喜んでくれる。その姿を見て、自分自身も喜びを感じるようになりました」と語る夏見さん。今では、聞き手の表情を見ながらその場で話す内容を変えたとのこと。独学で勉強され、きれいにまとめられたノートに努力の跡が伺えました。

一緒に宝探しをしませんか？

現在、有田市で語り部として活躍されている方は夏見さんを含め数名しかいません。「観光客の方から依頼があっても、人が少ないので、スケジュールの都合で、断るケースも多い。せっかく有田市の良さをPRできるチャンスを見逃してしまわないように、私自身も宝探しをしてみませんか？」

インタビューの最中に、観光客でもない私たちに、とある史跡の裏話などを話してくれた夏見さんは、とても楽しそうで、インタビューをする側も時間を忘れて夢中になりました。夏見さんからは、有田市への愛情が感じられました。

紀州有田語り部登録制度創設

有田市には見どころや逸話がたくさんあります。語り部はその見どころや逸話を観光客におもしろく、そしてわかりやすく話します。でもいきなりそんな話は誰もできません。少しずつ活動できるように、語り部の話を聞いたり、史跡勉強会などを開催する予定です。

興味のある方はお気軽に
ご連絡ください。



問 産業振興課（内線275）